

令和6年度 年末年始無災害運動を実施します

(実施期間：令和6年12月1日～令和7年1月15日)

「今年もやります！ 基本作業の徹底 年末年始も無災害」

特別民間法人 中央労働災害防止協会（中災防：理事長 竹越 徹）は、働く人が年末年始を無事故で過ごし、明るい新年を迎えることができるよう、事業場等の取り組みを促進する趣旨で、厚生労働省の後援のもと「令和6年度 年末年始無災害運動」を実施します。

この運動は1971（昭和46）年から中災防が主唱するもので、今回で54回目となります。本年度は2024（令和6）年12月1日から2025（令和7）年1月15日までを実施期間とし、下記の運動標語を掲げ、別紙の実施要領に基づいて展開します。

運動標語「今年もやります！ 基本作業の徹底 年末年始も無災害」

○ 年末年始の労働災害の特徴

- ・ 年末年始は、慌ただしい中での大掃除や機械設備の保守点検・再稼働等の作業が多くなります。機械設備による「はさまれ・巻き込まれ」、脚立や踏み台からの「墜落・転落」といった災害に特に注意が必要です。非定常作業時の安全確認の徹底、作業手順書の遵守など、全員で取り組むことが必要です。
- ・ 荷物が放置された階段・出入り口、通路の段差、油分や水で濡れている床、十分な照度が確保されていない場所では、つまずき、滑り等により転倒災害が発生しやすくなります。注意喚起の掲示に加えて、5Sの徹底、段差を無くす、こまめに床をふき取る、滑りにくい靴に代える、照明器具を交換する等、実施可能な対策から改善を進めていきましょう。
- ・ 冬季は積雪や凍結で路面も滑りやすくなっています。滑りにくい靴を選びましょう。また寒くても歩くときは、ポケットに手を入れず、手袋を着用しましょう。
- ・ 重い荷物の持ち上げなど、腰に負担のかかる作業は腰痛になるリスクが高まります。作業前の腰痛予防体操で筋肉をほぐし、急な動作・無理な動作は避けましょう。
- ・ 「交通事故」の死者・負傷者数、発生件数のピークは12月。運転者は夕暮時の早めのライト点灯を徹底し、日没後の運転は十分な安全確認が必要です。積雪や路面の凍結によるスリップを避けるため、急ハンドル、急ブレーキは控えましょう。

（裏面に続く）

○ 体調を整え、無理のない作業計画を

冬はからだ冷え上、年末年始は生活リズムも不規則になりがちです。作業開始前のミーティングでは健康チェックを行い、体調管理の大切さを伝えるとともに、少しでも体調に不安があるときは無理をしない・させないことが大切です。

またインフルエンザやコロナウイルス感染症等の感染拡大防止対策として、定期的な換気の実施、咳エチケットの徹底、こまめな手洗い・うがいを行いましょう。感染症予防には、免疫機能を上げることが大切です。身体をあたため、睡眠をしっかりととり、バランスの良い食事、適度な運動を心がけましょう。

○ 職場の特性・実情を踏まえた安全衛生対策を

食品スーパー・総合スーパーなどの小売業、社会福祉施設（介護施設）、陸上貨物運送事業などの死傷災害が増加傾向にあります。災害が発生しやすい個所や作業動作等に着目し、災害防止対策を講じるとともに労働者への安全衛生教育を行うことが必要です。

今回の年末年始無災害運動実施要領には、事業場が取り組む実施事項として 18 項目を掲げています。それぞれの職場の特性や実情を踏まえて活動・対策の進め方を考え、計画的に進めていくことが大切です。

中災防では、本運動を通して年末年始の作業における安全確認の徹底を呼びかけるとともに、この時期に業務が繁忙になる第三次産業（小売業、飲食店など）に向けて労働災害防止の取り組みを支援していきます。

令和6年度 年末年始無災害運動 中災防特設サイトは

中災防 年末年始 で 検索 



中災防 令和6年度 年末年始無災害運動ポスター、標語のぼり、冊子（一例）

※この資料は厚生労働記者会、厚生労働省労政記者クラブ、日比谷クラブ、鉄鋼研究会に配布しています。

特別民間法人 中央労働災害防止協会

【担当】 総務部長 樋口 政純

【照会先】 総務部 広報課長 岩田 良子（電話）03-3452-6542 E-mail koho@jisha.or.jp

令和6年度 年末年始無災害運動実施要領

1 趣 旨

年末年始無災害運動は、働く人たちが年末年始を無事故で過ごし、明るい新年を迎えることができるよう、事業場等の取り組み促進を図る趣旨で、昭和46年から厚生労働省の後援のもと中央労働災害防止協会が主唱する運動で、本年度で54回目を迎える。

職場の安全と健康を確保するためには、経営者、労働者が一丸となって安全衛生活動を推進し、災害のない職場環境を整えるためにも、一つひとつの作業を丁寧に確認し、次の作業に備えること、そして体調管理を万全にし、無理をしないことが大切である。

令和5年の労働災害による死亡者数は755人と過去最少だったものの、休業4日以上死傷者数は135,371人となり、3年連続で増加となった。そのうち60歳以上の高齢者の割合は29.3%となっており依然として増加傾向にある。

また本年8月末までの労働災害発生状況（新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）をみても、前年同期に比べて休業4日以上死傷者数は、全体で1.5%増加しており、業種別では陸上貨物運送事業で1.8%、第三次産業で3.0%の増加、事故の型別では「転倒」で0.9%、「動作の反動・無理な動作」で2.4%増加している。

こうした状況の中で、特に年末年始は大掃除や機械設備の保守点検・再稼働等の作業が多くなるほか、物流等の増加に伴う交通・荷役作業時の災害、積雪や凍結による転倒等の危険が増す。また、多忙による焦りや疲労からミスやエラーが起りやすくなる。そのため各事業場においては、非定常作業における安全確認の徹底、作業前点検の実施、作業手順や交通ルールの遵守、安全衛生保護具の点検の実施が一層重要となる。また転倒・腰痛災害予防のため、身体機能の維持向上のための取り組みや、感染症予防を含めた労働者の健康管理にも全員で取り組むことが大切である。

自身の安全・健康の確保はもちろん、周囲の仲間とも声を掛け合って、皆で力を合わせて無事に一年を締めくくり、明るい新年を笑顔で迎えられるよう、本年度の年末年始無災害運動を展開する。

2 実施期間

令和6年12月1日から令和7年1月15日までとする。

3 運動標語

「今年もやります！ 基本作業の徹底 年末年始も無災害」

4 主唱者

中央労働災害防止協会

5 後援

厚生労働省

6 実施者

各事業場

7 主唱者の実施事項

- (1) 機関誌、ホームページ等を通じたの広報
- (2) 報道機関等を通じたの周知
- (3) リーフレット等の制作および配布
- (4) 小冊子、ポスター、のぼり、デジタルコンテンツ等の頒布・配信

8 事業場の実施事項

- (1) 年末年始に実施する事項
 - ① 経営トップによる安全衛生方針の決意表明
 - ② 安全衛生パトロールの実施
 - ③ 機械設備に係る一斉検査および作業前点検の実施
 - ④ 年末時期の大掃除等を契機とした5Sの徹底、掲示や旗の掲げ替え
 - ⑤ 年始時期の作業再開時の安全確認の徹底
 - ⑥ 年末年始無災害運動用ポスター、のぼり等の掲示

- (2) 年末年始に実施状況を確認する事項
 - ① KY（危険予知）活動を活用した非定常作業における労働災害防止対策の徹底
 - ② 安全保護具・労働衛生保護具、安全標識・表示等の点検と整備・更新
 - ③ 化学物質のリスクアセスメントの実施を含めた化学物質管理の徹底
 - ④ 転倒、墜落・転落、はさまれ・巻き込まれ災害防止や腰痛予防対策の徹底
 - ⑤ 火気の点検、確認など火気管理の徹底
 - ⑥ 交通労働災害防止対策の推進
 - ⑦ 過重労働をしない・させない職場環境づくり
 - ⑧ 高年齢労働者を含めた身体機能の維持向上のための健康づくり、健康的な生活習慣（睡眠、食事、運動等）に関する健康指導などの実施
 - ⑨ 感染症拡大防止対策の徹底
 - ⑩ 職場のハラスメント防止につながる取り組みの推進
 - ⑪ 自然災害等に伴う復旧・復興工事等における労働災害防止対策の推進
 - ⑫ 安全衛生旗の掲揚、その他安全衛生意識高揚のための活動の実施